

エコアクション21

環境経営レポート



活動報告期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日



専門学校
静岡工科自動車大学校

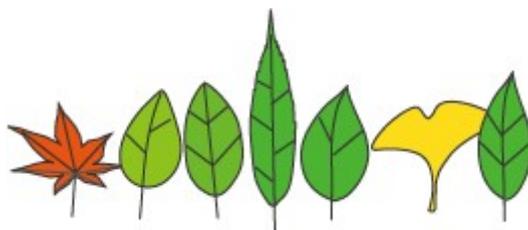
作成日

令和 6年 7月 9日

目 次



必須項目である環境活動の取り組み計画と評価	
・ 静岡自動車学園環境経営方針	2
・ 事業所の概要	3
・ 環境経営システム組織図	4
・ 環境経営システム（事務部門、教育部門詳細）	4
・ 環境経営システム（役割）	5
・ 主な環境負荷の実績	6
・ 環境経営目標及びその実績	7
・ 必須項目である環境経営計画の取り組み結果とその評価	8
・ 自動車整備専門学校としての環境活動の取り組み計画と評価	9
・ 令和3年度シラバスに基づく環境教育	9
・ 施設・設備に関する環境教育	10
・ その他の環境活動の取り組み実績	11
・ 問題点の是正処置及び予防処置の結果	12
・ 環境関連法規等の厳守状況	14
・ 外部から苦情等の受付状況	15
・ 環境上の緊急事態の訓練結果	15
・ 校長による評価と見直し	16



環境経営方針



(環境理念)

学校法人静岡自動車学園は、環境にやさしい交通社会の実現を目指す交通教育機関として、地球の環境保全や環境負荷の低減など環境に配慮した活動を目指す。

(環境方針)

1. 教育活動を通じて環境問題を意識した行動のできる学生を育成する
2. 自動車運転教習を通じてエコドライブを意識したドライバーを育成する
3. 良好な環境を保全するため環境関連法規を遵守する
4. 二酸化炭素排出量削減のためエネルギー使用量の削減に努める
5. 水資源を有効利用するため節水に取り組む
6. 資源の有効利用(リサイクル)により廃棄物削減を目指す
7. 環境に配慮した物品等の購入・使用を心掛ける(グリーン購入)
8. 生活環境の保全のため化学物質使用量の削減を目指す
9. 環境経営の継続的改善を誓約する

制定：令和元年6月30日



学校法人
静岡自動車学園
理事長 平井 一史



事業所の概要

令和6年4月1日現在

1. 事業所名及び校長氏名

専門学校 静岡工科自動車大学校
校長 古澤 浩一

2. 所在地

〒420-8507
静岡県静岡市葵区宮前町52-1

3. 静岡工科EA21リーダー、事務担当者氏名及び連絡先

静岡工科EA21リーダー・静岡工科事務局(事務担当者)
総務課長 小池 京司
TEL : 054-263-4666 (代)
FAX : 054-262-7288
E-mail : koike@kohka.ac.jp

4. 事業内容

専門学校(自動車整備士養成課程)
自動車整備業 (認証: 静第24号、指定: 中指第4836号)

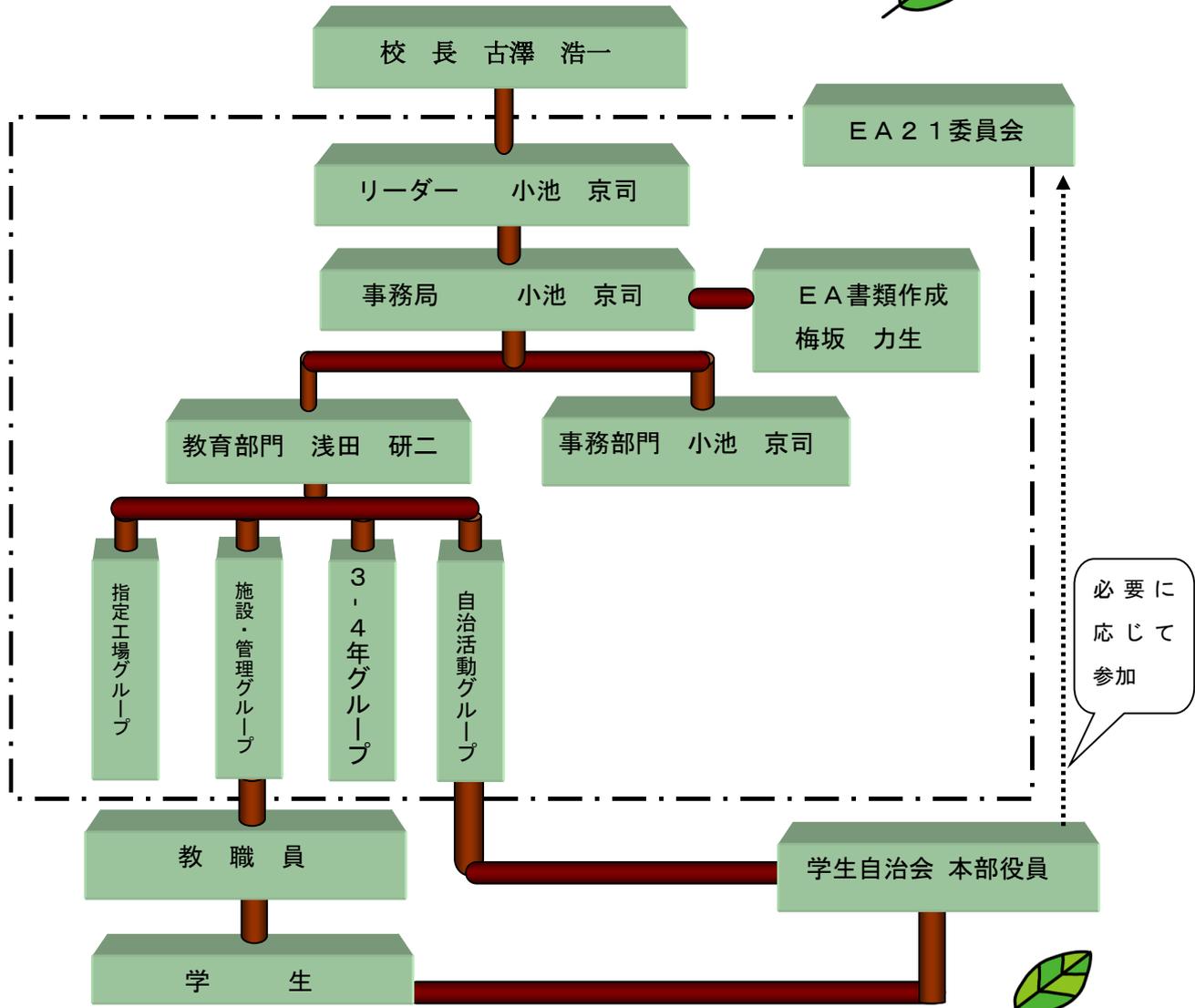
5. 事業規模

在学生数	466人(令和6年4月)
従業員数	31人(非常勤講師及びパート除く)
延べ敷地面積	9,520.14 m ²

6. 事業年度

活動報告期間: 令和5年4月1日~令和6年3月31日
データ測定期間: 令和5年4月1日~令和6年3月31日

専門学校 静岡工科自動車大学校
環境経営システム組織図



※工科E A 2 1委員会はリーダー、事務局、E A書類作成、教育部門長、事務部門長及び指定工場グループ、施設・管理グループ、3-4年グループ、自治活動グループのリーダーで構成する。

事務部門、教育部門詳細

下表の()がE A 2 1委員

事務部門 (部門長 小池京司)	総務課	小池、坂井、劔持、美濃部
	入試・進路課	瀧、小杉、橋本
	広報・奨学金・保険	植田、佐野
教育部門 (部門長 浅田研二)	指定工場グループ (リーダー梅坂力生)	西村、五十嵐 大石、齊藤、渡辺優、田村
	施設・管理グループ (リーダー梅澤均)	高野、鈴木浩、佐々木、中野、古瀬
	3-4年グループ (リーダー齋藤晃一郎)	梅澤、渡辺優、西村、高野、 大石、渡邊広、五十嵐
	自治活動グループ (リーダー廣石逸夫)	梅坂、渡辺広、アキオ、宋波
	他 教務課	杉山、山本、渡邊徹、佐藤、原、岡村、 渥美、増田

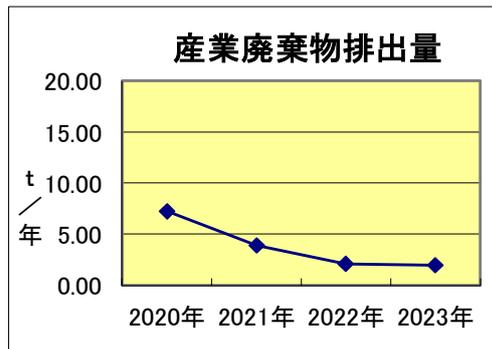
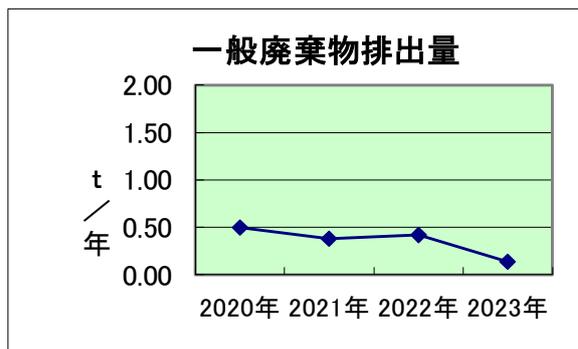
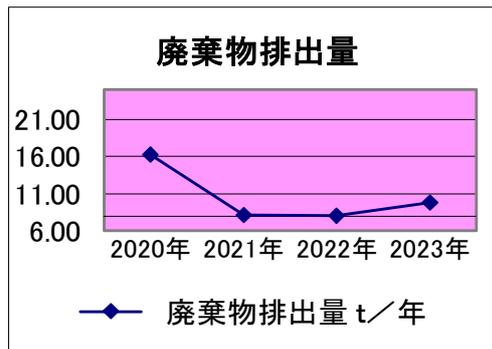
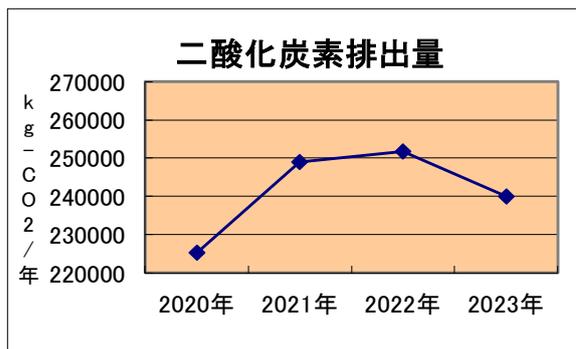


<p>校 長 ・ 副 校 長</p>	<p>①環境経営システム全般を総括しその最終責任を負う。 ②環境経営システムの実施と管理のために必要な経営資源を割り当てる。 ③工科E A 2 1リーダー及び委員を任命する。 ④環境経営方針に沿って、環境経営目標、環境経営計画及び環境活動レポートを承認する。 ⑤環境経営目標及び環境経営計画の相互間に不整合がある場合には、調査及び是正の指示をする。 ⑥環境経営システムの見直しを行い、システム及び環境活動に関する課題がある場合には調査及び是正の指示をする。 ⑦環境関連法規等で定めがある場合には、必要な者を任命する。</p>
<p>工 科 E A 2 1 委 員 会</p>	<p>①環境経営システム全般が円滑に実施されるよう運営する。 ②環境経営目標及び環境経営計画に対する自己評価を行う。 ③環境経営システムの見直しに参画する。 ④環境経営レポートを作成する。 ⑤全体のシステム進捗状況を共有する。 ⑥学生自治会と協調し環境負荷低減に努める。</p>
<p>リ ー ダ ー</p>	<p>①環境経営システムを運用・管理する。 ②各部門を総括する。 ③環境経営システムの見直しのため及び改善の基礎として、校長に環境経営システムの成果を報告する。 ④問題発生時は是正を指示する。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>①環境経営システムの維持・改善を行う。 ②是正及び予防処置に関する援助・推進を行う。 ③関連部門に対する環境課題の提起・勧告・援助を行う。 ④学校全体の環境に関する教育訓練カリキュラムを教育部門長と共に作成する。 ⑤工科E A 2 1委員会事務局業務を行う。 ⑥環境経営レポートを作成・取りまとめをする。</p>
<p>部 門 長</p>	<p>部門長共通 ①自部門の環境管理に関する全責任と全権限をもつ。 ②工科E A 2 1委員会において環境経営システムに関する課題解決に協力する。 ③自部門の環境管理について代表者への報告・提案を行う。 ④自部門に対して是正及び予防処置について、調査及び是正の指示をする。 (事務部門長) ①遵守しなければならない環境関連法規及びその他の環境関連要求事項を整理し、一覧表にまとめ、施設の新増設の届出・諸報告及び関連官庁との折衝を行う。 ②地域社会との環境に関する折衝及び苦情に関する対外折衝を行う。 ③緊急事態(火災・爆発・地震・風水害)発生時の校内外への連絡をする。 ④敷地境界他、キャンパス全体の管理(電気・ガス・水・購入品・廃棄物等)を行う (教育部門長) ①環境意識の高い学生を育成する。</p>
<p>グ ル ー プ リ ー ダ ー</p>	<p>①担当職務の環境管理に関する全責任をもつ。 ②目標を達成するための環境経営計画を立案し実施する。 ③是正及び予防処置の立案・実施を行う。 ④自グループの教職員に対し、環境管理に関する教育訓練を行う。 ⑤自職場で管理する環境設備の保全を行う。 ⑥自職場の環境管理について部門長への報告・提案を行う。</p>

主な環境負荷の 実績



項目	単位	2020年	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素排出量 (対象：エネルギー総量)	Kg - CO ₂ / 年	225,259	248,982	251,802	239,940
廃棄物排出量	t / 年	16.26	8.11	8.08	9.80
一般廃棄物排出量	t / 年	0.50	0.38	0.42	0.14
産業廃棄物排出量	t / 年	7.21	3.90	2.10	1.96
総排水量	m ³ / 年	1516.00	2901.00	2901.00	1648.00

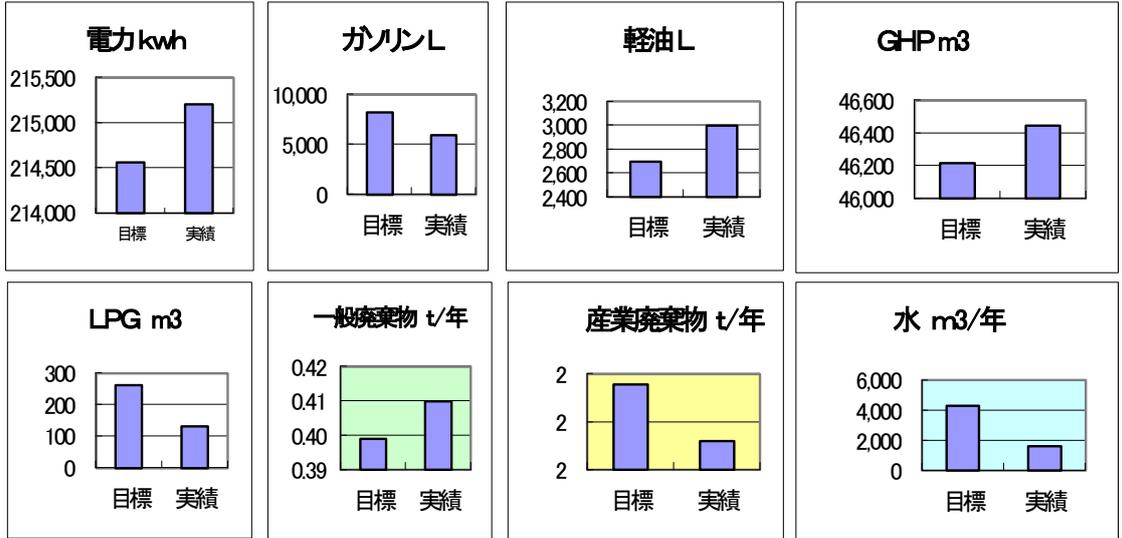


- * 過去4年間の推移となります。
- * 2020年とは2020年4月1日～2021年3月31日のことである。
- * 2021年とは2021年4月1日～2022年3月31日のことである。
- * 2022年とは2022年4月1日～2023年3月31日のことである。
- * 2023年とは2023年4月1日～2024年3月31日のことである。

環境経営目標 及びその実績



項目	年度	基準年数量 (2022年)	×比 (2022年)	2023年			2024年
				(目標)	(実績)	判定	(目標)
電力の 二酸化炭素排出量 削減 排出係数： 0.547	kWh	216,731.00	0.99	214,563.69	215,205.00	×	204,444.75
	Kg-CO ₂ /年	126,994.26	0.99	125,724.32	117,717.14	○	116,539.97
自動車燃料 (ガソリン、軽油 等)の 二酸化炭素排出量 削減	ガソリン L	8,627.65	0.95	8,196.27	5,936.17	○	5,876.81
	軽油 L	2,836.33	0.95	2,694.51	2,998.69	×	2,848.76
	Kg-CO ₂ /年	27,333.88	0.95	25,967.19	21,508.53	○	21,293.44
その他 (GHP、LPG) の 二酸化炭素排出量 削減	GHP m ³	48,652.00	0.95	46,219.40	46,444.00	×	44,121.80
	LPG Kg	276.14	0.95	262.33	131.86	○	130.54
	Kg-CO ₂ /年	105,916.73	0.95	100,620.89	100,714.62	×	95,678.89
二酸化炭素排出量 合計	Kg-CO ₂ /年	251,802.47	0.95	239,212.35	239,940.29	×	227,943.28
一般廃棄物の削減	t/年	0.42	0.95	0.40	0.41	×	0.39
産業廃棄物の削減	t/年	2.10	0.99	2.08	1.96	○	1.94
節 水	m ³ /年	4,537.00	0.95	4,310.15	1,648.00	○	1,631.52
化学物質	—	適正管理	1.00	適正管理	適正管理	○	適正管理



* 令和4年の実績は4月1日～3月31日までの1ヶ年のものである。

必須項目である環境経営計画の
取り組み結果と評価



取り組み計画	達成状況		単位	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
電力の削減 不要照明の消灯 冷房 26～28℃、 暖房 20～22℃に設定 定時退社の日設定 (2回/月)	目標	125,724.32	Kg - CO ₂	目標は達成できた。
	実績	117,717.14 93.6	Kg - CO ₂ %	節電への意識が向上していると考えられる。 コスト面のこともあるので、気を緩めずに引き続き、不要照明の消灯を行う等、さらなる節電を目指したい。
自動車燃料（ガソリン、軽油）の削減 エコドライブの推進 電気自動車の優先利用	目標	25,967.19	Kg - CO ₂	目標は達成できなかった。
	実績	21,508.53 82.8	Kg - CO ₂ %	浜松工科の本格始動に伴い、校用車の利用が増えたことが要因の一つと考えられる。 引き続き、ハイブリッド車、燃料電池自動車を積極的に使用すると共に燃費を気にした運転を心がける。ノーカーデーも推奨したい。
その他の燃料（GHP、LPG）の削減 冷房 26～28℃、 暖房 20～22℃に設定 塗装乾燥ブースの効率的な使用	目標	100,620.89	Kg - CO ₂	目標は達成できなかった。
	実績	100,714.62 100.2	Kg - CO ₂ %	コロナ禍による換気が要因と考えられる。 不必要な冷暖房はしないように心がける。冬はつなぎの上に上着の着用が認められた為、徹底することで設定温度（20～22℃）遵守を心がけた。他、早めの帰宅を推奨したい。
一般廃棄物の削減 裏紙の使用 ミスコピーの防止 雑紙の仕分け	目標	0.40	t	目標は達成できた。
	実績	0.41 102.5	t %	ただ、適切な削減努力はできている。 今後も意識を高めるべくポスターなどで啓蒙活動が続けていくと共に、裏紙の使用や雑紙の分別等を徹底したい。
産業廃棄物の削減 プラゴミを出さない工夫 過剰包装を断り、梱包物を業者に持ち帰ってもらう	目標	2.08	t	目標は達成できた。産廃教材の分解分別による再資源化の割合が高まったと思われる。
	実績	1.96 94.2	t %	今後も現状維持ができるようにしていきたい。
節水 無駄水を出さない	目標	4,310.15	m ³	目標は達成できなかった。
	実績	1,648.00 38.2	m ³ %	台風被害での漏水が大きく影響している。 節水に心がけ、毎月々の変化をしっかりと見極め使用量が減らせるよう心がけていきたい。
化学物質 管理簿による適正管理	適正管理	適正管理	—	台帳にて適正管理をしていた。
				次年度も、引き続き適正に管理を行う。

基準年度 : 2022年

追記（今後の方向性）

※ コロナ禍授業対応からコロナ前の通常の学校生活に戻りつつある。対面授業により効果的な教育効果が期待できるが、実質的な施設利用人数の増加に伴い、電気や水の使用量は増えていくことになる。適切な使用と実践により目標の達成を目指す。

自動車整備専門学校としての 環境活動の取り組み計画と評価



教育

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
学生に対する環境教育の実施	目標 実績	100	%	年度を通して計画どおり全教育を実施した
		下のとおり		テキストを用いた環境教育のみにとどまらず、常に環境意識の高い学生が輩出するよう標語を募集するなど日常的な環境教育も心がける。



・令和3年度シラバスに基づく環境教育 ※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科1年	特別学習	3	4/21	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車システム工学科2年	環境経営システム	9	11/1 ～ 12/8 (12/19)	地球規模の環境保全とその必要性 環境保全の現況と必要性、環境保全への取り組み 資源の有効利用 資源の有効利用による社会的貢献 資源有効利用の要件、再利用部品の活用 リビルト部品、中古部品 産業廃棄物処理の影響と対応 産業廃棄物とは、マニフェスト制度とは 使用済自動車の問題とマニフェスト制度 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 エアバック、バッテリー、タイヤ、冷却水 (LLC) フロン回収・破壊の処理 環境への影響、規制の内容、適正処理方法 カーエアコン用特定フロン、代替フロン P R T R法 整備事業場等の固定施設における環境保全など 本校の環境管理システムについて
自動車システム工学科3年	総合診断・環境・安全	15	11/6 ～ 12/7 (12/26)	フロン回収破壊法・自動車リサイクル法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 リサイクルの現状
自動車システム工学科4年	環境保全	3	6/30	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車整備科 1年	特別学習	3	4/21	地球規模の環境問題 自治体の公共事業が原因の環境問題 企業・家庭生活が原因の環境問題
自動車整備科 2年	環境経営システム	9	11/1～ 12/8 (12/19)	システム工学科2年生と同様
国際オートメカニック科 1年	特別学習	4	4/13, 12/14	エコアクション21について 地球規模の環境問題
国際オートメカニック科 2年	特別学習	3	4/12	エコアクション21について 地球規模の環境問題

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
国際オート メカニク科 3年	環境経営 システム	10	6/13～ 6/21	システム工学科2年生と同様
自動車システム工学科 ボディエンジニアコース3年	環境保全	3	4/18	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 開発エンジニアコース3年	特別学習	3	4/28	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準
自動車システム工学科 開発エンジニアコース4年	行事体育	3	4/28	地球規模の環境問題、工科の環境管理基準

・施設・設備に関する環境教育（油水分離槽関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科1年	ガスペーション実習	1	10/6, 17	特定施設とは 油水分離槽の位置 油水分離槽の構造と機能 油水分理槽の点検と清掃 緊急時の対応
自動車システム工学科3年	車両検査実務実習2		5/8, 25, 6/1	
自動車整備科1年	ガスペーション実習		9/14, 11/10	
国際オートメカニク科2年	トラック実習		6/27, 28	
自動車システム工学科3年 (開発コース)	点検車検実習1		2/2	

・施設・設備に関する環境教育（エア・コンプレッサ関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科2年	大型自動車実習	1	4/26, 5/16, 6/9 .22	特定施設とは エア・コンプレッサの機能 エア・コンプレッサの取扱者 エア・コンプレッサの運転時間 エア・コンプレッサの保守・点検 緊急時の対応
自動車システム工学科3年	車両検査実務実習1		12/11, 2/2, 7	
自動車整備科2年	大型自動車実習		7/7, 26(7/13)	
国際オートメカニク科2年	エアシステム実習		5/12, 6/27	
国際オートメカニク科3年	自動車総合実習		6/29	
自動車システム工学科 ボディエンジニアコース3年	環境保全		4/18	
自動車システム工学科 開発エンジニアコース3年	点検車検実習1		2/2	

・施設・設備に関する環境教育（塗装ブース関係）

※1時間は90分

科・学年	科目名	時間	実施日	内 容
自動車システム工学科 ボディエンジニアコース3年	環境保全	1	4/18	特定施設とは 塗装ブースの取り扱い 塗装ブースの保守・点検 緊急時の対応

職員

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度 比	上段：結果に対する評価 下段：次年度の取り組み内容
通勤車両からの二酸化炭素排出削減 月2回ノーカーデーの実施	基準年度 排出削減量 目標	2023 0.8 100	t %	削減量を基準年100%目標としていたが、達成することが出来た。 この取組は排出量削減に大きな効果があると判断できることから今後も継続して実施していく。今後もノーカーデーの呼びかけを行う。
	(実績) 排出削減量 削減率	1.1 -3.0	t %	

その他の環境活動の

取り組み実績



・学生自治会による5S4R運動の推進

5S4Rの唱和实施（毎朝のショート・ホーム・ルーム時）

環境標語 優秀賞「ちょっとだけ その行動が 地球を救う」（令和5年12月）

クラス委員による校内5S点検実施（隔週）

・教室エアコンの温度管理

夏季26～28℃、冬季20～22℃に設定

・教室エアコンフィルタの定期清掃

7月、12月、3月に実施

・塗装乾燥ブース、塗装乾燥装置の維持管理

フィルタ点検清掃又は交換 7月、12月、3月に実施

・集塵機の維持管理

6月、9月、12月、3月に点検実施

・側溝清掃

C棟1階 7月、12月、3月に実施

B棟2階 7月、12月、2月に実施

B棟1階 毎月実施

・校用車（乗用車）のエコ化及び電気自動車の積極利用

校用車（乗用車）6台中、燃料電池自動車、ハイブリッド、
など計2台（以下は校用車の一部です）



ハイブリッド：プリウス



燃料電池自動車：トヨタ ミライ

静岡市内の移動は「燃料電池自動車：トヨタ ミライ」を優先利用

・ソーラー発電

C棟屋上に最大出力30kwのソーラーパネルを
設置し発電した電気で電気自動車に充電を行う他、
本校の使用電力の一部を賄う



最大出力30Kwhのソーラーパネル



電気自動車の充電スタンド



問題点の是正処置および予防処置の結果 ならびに次年度の取り組み



1. 二酸化炭素排出量削減について

- (1) 電力の使用については、目標値には達成できなかったが、使用量は昨年より若干減っている。ただし昨今のエネルギー料金高騰はまだ続いているので、引き続き「使用していない教場の消灯、エアコンのスイッチを切る」、「教場の効率的な使用」を訴え、更なる節電を目指したい。
- (2) 自動車用燃料である軽油については、基準年度よりも使用量が増加しており目標を達成することができなかった。イベントへの出展等、キャリアカー、レンジャーの使用が増えたことが要因と推測できる。ガソリンについては引き続きハイブリッド車、燃料電池自動車、電動アシスト自転車および通常の自転車などの活用を推進し、燃費も意識した運転を訴えかけ、確実に目標を達成したい。
- (3) その他のGHPの使用量は目標値より上回ってしまった。窓をあけてエアコン使用が定着したことで、昨年同様に使用量が増えたことが要因として考えられる。電力と同様にガス料金も高騰しており、コスト面において重要な課題と捉えている。これまで以上に正しいエアコンの使用に努め、さらにコスト面に効果的なエアコン使用方法を検討、実践し削減していきたい。

2. 廃棄物の削減について

- (1) 一般廃棄物については目標を達成できなかったが、コロナ禍の生活様式の変更によりごみ箱を撤去したことや、古紙リサイクルの推進により、適切な削減努力はできていると考える。今年度も引き続きゴミと雑紙の分別徹底や循環資源量も増加させていくことに努め、目標達成を目指したい。
- (2) 産業廃棄物については目標より削減することができた。鉄くず、アルミの分別を適切におこない、推進したことにより再資源化された量が多くなった。今年度においても適切な分別を推進し目標を達成したい。



3. 節水について

節水については、漏水の工事を行ったことで目標達成できた。勿論、日々の努力もあるが、今後も自然災害が起因することがあるかもしれないので、老朽化による漏水が発生する可能性もある。毎月の使用量の変化をしっかりと見極め、節水に努めたい。

4. 通勤車両からの二酸化炭素排出削減

目標は達成できた。月に 2 回のノーカーデーを個人で実施日を設定し取り組むことにしているが、現状として長距離通勤の職員の実施は難しいと考える。主に静岡市内からの通勤職員に対し積極的な実施をアナウンスし、今後も目標達成を目指したい。

5. 学生に対する環境教育の実施

計画どおり教育を実施することができている。本年度は自治会役員学生が主体となっていていろいろな環境活動、イベントの開催を実施してもう。学生を交えた効果的な環境教育を展開し、成果につなげたい。



環境関連法規等の 遵守状況



法的義務を受ける主な環境関連法規は次のとおりである。

分類	適用法令	届出施設	運用(遵守事項)	届出状況 運用状況
水質	水質汚濁防止法、 同施行令、同施行規則	油水分離槽5基	-	○
	下水道法、同施行令	特定施設使用届	-	○
大気	県条例(粉塵)	集塵機3基 塗装乾燥ブース1基	-	○
騒音	騒音規制法	-	第2種(住居)区域の騒音基準の順守	○
	県条例(騒音)	エアコンプレッサ2基 エアコン用冷凍機17基 集塵機3基	-	○
振動		対象外	対象外	-
悪臭	悪臭防止法	-	臭気指数 10	○
土壤汚染		対象外	対象外	-
地盤沈下		対象外	対象外	-
フロン	フロン排出抑制法	-	GHPエアコン点検履歴 保管	○
消防	消防法、市火災予防条例	少量危険物貯蔵所1箇所	-	○
化学物質	PRTR法	-	取扱が少量(1t未満)で 対象外だが管理している	○
廃棄物	廃掃法	-	産業廃棄物管理表に 従い適正処理	○
	自動車リサイクル法	-	使用済み自動車の適 正事業者への引き渡し	○
	建設工事に係る資材の再 資源化等に関する法律、 同施行令	-	解体時に届け出る	○
	プラスチックに係る資源循 環の促進等に関する法律	-	-	○
その他	9都県市のディーゼル車 規制(運行規制)	-	校用車は対策済み車 両	○
	道路運送車両法	認証工場、指定工場	-	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、逸脱はなかった。

また、今年1年間、違反や訴訟もなかった。(令和5年3月現在)

外部から苦情等の 受付状況



今年1年間、外部からの苦情はなかった。(令和5年3月現在)

環境上の緊急事態の 訓練結果



ガス溶接時の火災事故防止およびバッテリー充電時の爆発事故と火災事故の防止を図るため下表の授業の中で訓練を実施した。※()は実施日

科・学年	ガス溶接時訓練	バッテリー充電時訓練
自動車システム工学科1年	自動車点検実習 (2/13, 3/1) [3/2]	電気回路実習 (4/28~6/5)
自動車システム工学科2年		ガソリン・エンジン制御実習 (6/6, 6/19, 7/5, 7/20)
自動車システム工学科3年 1級エンジニアコース	高度シャシ制御実習1 (6/30, 7/6, 7/8) [7/28]	HV・HEV 実務実習 (7/5, 7/7, 7/12) [7/13, 21]
自動車システム工学科3年 開発エンジニアコース	工作実習 (11/10)	エンジン実習 (11/6)
自動車整備科 1年	自動車点検実習 (1/25, 2/2)	電気回路実習 (6/9, 6/27)
自動車整備科 2年		ガソリン・エンジン制御実習 (4/24, 5/16) [4/26]
国際オートメカニック科1年	自動車点検実習 (1/15)	電気回路実習 (5/2)
国際オートメカニック科2年		アライメント実習 (4/18, 6/29)

[] 内は再試験日

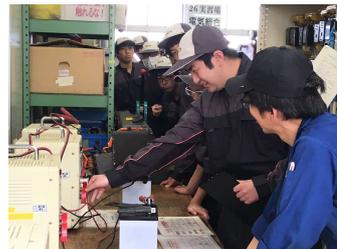
訓練の実施内容

ガス溶接時訓練	バッテリー充電時訓練
ガスボンベ等の保管方法 溶接作業を始める前の片付け 作業中の注意事項 ガスボンベ等の機器の取り扱い方法 引火した場合の対応方法 バケツリレー、消火器の取り扱い方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認	バッテリー充電方法、注意点 希硫酸の特性、引火性ガスの特性 バケツ、消火器の設置場所確認 希釈又は中和の方法 爆発した場合の対応方法 避難経路の確認、緊急時の連絡先確認 廃バッテリーの保管

※ 緊急時訓練（ガス溶接、バッテリー充電）以外に火災非難訓練（6/1）及び消防用設備の取扱要領の確認（11月～12月）を実施した。



ガス溶接時訓練
(バケツリレー)



バッテリー充電時訓練

校長による 評価と見直し



令和5年度は、昨年度に引き続き「E A 2 1活動を推進し、エネルギー削減目標を達成」を学校全体の目標とし、二酸化炭素排出量、前年比-5%を達成するようE A 2 1活動を実施したが、残念ながら多くの項目で前年の実績を下回り、目標を達成することができなかった。

まず、電力の使用については前年度比1%削減の目標に対し、目標達成という結果であった。三年連続目標達成したことも併せ、良好な結果と言える。昨年に続き、エネルギー高騰の影響を受け、電力削減量を上回る電気料金の増加が発生しコスト面において課題となっている。

自動車用燃料であるガソリン・軽油の使用量については、前年度比1%削減の目標に対し、ガソリンは目標達成、軽油は111.2%という結果であった。

都市ガス及びLPGの使用量はほんの少し減少となったが、目標達成できなかった。対面授業で窓を解放した状態でのGHPエアコンの使用が常態化したことが本年度も続いているからである。また電力と同様にエネルギーの高騰化によるコスト面の影響が大きく出ており、早急の対策が求められる。

例年以上に学校全体の問題としてとらえ、省エネルギー活動を推進する必要がある。

廃棄物の排出量に関しては、一般廃棄物がほんの少し減少、産業廃棄物は目標達成した。引き続き精度の高い分別を期待したい。

水の使用量については漏水工事を行ったため、大幅に減少した。今後も施設等の老朽化による漏水も懸念されるため、使用量の変化には注意する必要がある。

通勤車両からの二酸化炭素排出削減については、月に2回のノーカーデーを設定し、目標達成となった。健康増進のため自転車通勤を推奨するなど、今後もできる範囲の中で目標を達成するよう努めていきたい。

学生に対する環境教育の実施については年度計画通り実施できている。引き続き環境教育を継続し環境意識の高い人材を輩出していきたい。自治会役員によるイベントの企画、運営も期待したい。

今後も環境方針にもある「環境問題を意識した行動のできる学生の育成」という目標達成に向け、教職員が主体となってエコアクション活動を推進し、職員、学生が一体となった活発な活動を強力に推進し、その上位目標であるSDGSの活動へとつなげていきたい。

専門学校 静岡工科自動車大学校
校長 古澤 浩一